

議会報告会質疑応答記録

記録作成：議会基本条例推進委員会

- 開催日時：平成28年11月6日（日）14時00分～16時10分
- 開催場所：百合が丘児童館
- 参加者：13名
- 主催者側：議員（14名）、議会事務局（3名）
- 次第 ①挨拶（添田議長）
 - ②平成27年度決算概要報告… 決算審査特別委員長（根岸副議長）
 - ③総務建設経済・教育福祉各常任委員会より重点施策・事業について説明
 - ④上記説明に対する質疑応答
 - ⑤グループ意見交換会… A：二宮町公共施設の将来構想について
B：地域と学校のあり方
 - ⑥まとめ

<議会報告②③に関わる質疑応答>

参加者：住宅ストックは本当に住宅だけか、空き家を住宅として使うだけか。

添田議長：254軒のうち現在3軒が空き家バンクに登録している。その運用、活用が必要となる。調査の目的は、町内全体の空き家の分布傾向、所有者の希望から発生原因や特徴を明確化するものであった。流通促進を図るための基礎資料を作成するというのがある。

参加者：地域包括システムでは場所も何も与えられていない。自分の家を利用してやるのか、という思いを持つ人もいるなか空き家などを利用できないか。

添田議長：空き家を住宅以外に使用できるか否かは明確な答えがない。行政に確認して、HPに載せたいと思う。

追記：意見交換会後に企画政策課に確認したところ、「現在の補助制度では、住宅以外の利用は認められていない」とのことであった。

参加者：住宅ストック254軒のうち、3軒以外は空き家として放置されている。他の事業とのマッチングは何かしているのか。それからコミュニティバスの運行、利用したい時間帯に使えるバスがない。団地中央までしか行かない。回送として駅まで行くならそのまま二宮駅まで乗せて行ってほしい。

添田議長：住宅ストックに関しては、今後どうするのか詳しく聞いていない。HPを見るには単純にそれをマッチングするだけ。システムをつくったぐらい。担当課に聞いて議事録に載せる。

追記：意見交換会後に企画政策課に確認したところ、「今後の空き家対策にさらに役立てていく」とのことであった。

コミュニティバスについては、平成25年にやったときはルートを変えて、運行頻度を変えた。1日8回あったのを9回にしたぐらいで、たいして増えていない。ルート

を変更して利便性を高めたかったのだが、利用者は減ってしまい実際にはマッチしなかったということになる。利便性を増やして利用者数を増やし、その運賃でデマンドタクシーを走らせようと思っていたのに目論見が外れた。現在、町は町民の皆さまに説明会を開いている。

参加者：中学生までの医療費助成は、実際に今お金がない中で、本当に必要性があるのかどうか考える必要がある。スポーツを推進しますというわりには、袖が浦プールを休止し山西プール1つになってしまった。この先施策はあるのか。

小笠原議員：小児医療費助成については、27年度の予算、制度化するときには質疑があり、コンビニ受診のようなものが発生するのではないかと、1回診察を行ったのにまた他の病院に行ってしまうなど、不必要な重複受診が発生するのではないかとという心配はあった。10月からの半年だが60万円の増加だった、他の自治体からの差別化をして、アピールしていくためにも必要。費用対効果の面でいえば、このぐらいであれば二宮は子育て支援が手厚い、というアピールにはなっていくのではないかと。低所得者や母子家庭においては18歳まで無料なので、この制度をどこまでやるのかは、60万円でも今後は違うところに生かした方がいいのではないかと議論も出てくるのかなと思っている。いつまでも無料でなんでもサービスする、ということとはできないと議論も出てくると思うが、何でも受益者負担というのも福祉の観点では違うと思う。

またプールは袖が浦を閉鎖したのはおかしいのではないかと議論があったが、前町長は「何を作ってくれ」というのも良いが、「〇〇はやめよう」という提案も同時にしてくれないと予算上困ると言っていた。袖が浦プールは塗り替え費用含め年間維持費が800万円位で、利用料収入が50万円位。水泳の授業では天候により使えなかった年がある。「休止」と言っていて「閉鎖」とは言っていない。再開して欲しいという声がどれぐらい出てくるのか。

参加者：利便性の良い駅前ナーサリーは、0、1、2歳の乳幼児の待機児童を解消するのに有効であったとのこと。他に保育事業で、一時預かりや特別保育を実施されたと聞いたが、病後児保育や特色ある保育事業の展開などはどうしていくか。

小笠原議員：ナーサリーができたときには待機児童はいなかったが今はいる。1か月前に3、4人いた。ずっと待機児童がいなかった。働くお母さんはもっと便利などころに行ってしまうとも聞いたことがあるが。うちの町で要望が多いのは、病児保育、病後児保育である。大磯は病後児保育はすでに始めている。議会の中でも要望は出ている。町の回答は研究していきます。との答弁にとどまっている。現実には働く親にとっては非常に大切だと思う。

参加者：まちづくりの総合事業。総合計画の基本中期計画の策定時という基本計画はいつからいつまでで、公共施設の再配置はこうですよというのがあれば教えて欲しい。町有地がいくつあって、それをどうしたら有効活用できるのかという点はいかがか。

添田議長：中期計画は28年度から30年度まで。町有地の有効活用検討委員会が問題が顕在化している中で設置された。正泉寺、東大果樹園跡地、小児病院跡地については、次の意見交換会資料で説明する。

参加者：町の事業を説明してもらっていると受け止めた。知りたいのは、議会がどう

いう議論をして、どう考えているのかを聞かせて欲しい。考え方とか、位置づけとか、スタンスとか、その辺はどうなのか。町の考え方の答弁を聞いている感じがする。

添田議長：部分部分で議会ではこういう議論があった、というのを説明の中で少しずつ入れている。今までの報告会の中でも一番入れているつもりである。今後の改善点などもお示しするのであれば、委員会審査や本会議での賛否の討論を出すということをしていく。

参加者：公共交通のデマンドは何年もやっていて課題も出ている。予算を決めたのは議会なのだから、点検して、提案して、承認しているわけで、議会として課題がどこにあるのかというのは知りたい。

添田議長：目的は、コミバスは神奈中が路線を廃止した地域に背に腹は代えられない中始めたと理解している。でも実際利用者がいない。公共交通の委員会で検討して、この計画をつくっており、運行ルートを変えて、頻度を少し高めて、固定費は変わらない中で、利用者を増やしてお金を得て、その分でタクシーを走らせるということで認めた。

ずっと言い続けてきたが、町は「試行」だと言っていた。改善します、改善しますと言って、こちら改善せよと言いつけている。

参加者：移動町長室と議会報告会とさほど変わらないと受け止められるので、議論をお願いしたい。

(以上の質疑応答の後、グループに分かれ意見交換会を開催)